

埼玉県秩父地域における森林資源利用について

○岩田雄介（東京農大院）・佐藤孝吉（東京農大）・箕輪光博（大日本山林会）

はじめに

秩父地域の特色を挙げるとするならば、主に3点ある。

1点目は、首都圏から近いことである。これにより、地域へのアクセスが容易となり、交通の便が良く観光客が訪問しやすい環境にある。その一方で、地域住民は地域の外へ進学や働きなどに出ているのが現状である。

2点目は、森林面積が広大なことである。これにより、森林資源が多いと同時に、環境保全機能や水源涵養機能などの公益的機能などがより重要視されることになる。

3点目は、独自の文化が存在していることである。秩父神社や三峯神社を中心とした地域による昔からの祭りは、全国的にも有名である。

そこで、本研究では、埼玉県秩父地域における地域としての社会的、文化的なまとまりと、その特色を大いに活かした森林資源利用の方法を提案することを目的に、今回は関連する森林組合、素材市場、製材所などの現状を調査したので、その概要を中心に報告する。

調査方法

林業・林産業の現状と、各事業者の取り組みを明確にするために、①原木市場、②製材業、③木質バイオマス施設に関連したもの、④その他をそれぞれ2008年4月から9月にかけて聞き取り調査など行った。

結果と考察

林業活動においては、T森林組合などが中心となって、森林所有者を取りまとめ、素材生産業を行っていた。そして、素材は主としてT森林組合の市場へと出荷していた。

製材業者の特徴としては、大規模業者といわれているU製材、KA製材は、大手の住宅企業と結びつきが強いこともあり、大量生産をしており、県外への出荷を主としていた。

一方で、中・小規模業者といわれているA製材、KO製材などは、天然素材の特徴を活かした独自の取り組みを地域内を中心に行っていたが、停滞気味であった。

中・小規模業者におけるこの停滞は、単に1業者の経営不振だけにとどまらず、森林所有者や素材生産業、また製材業に関連した業者や施設など、関連業界全体の不振に関わる重大な問題であると私は考える。

聞き取り調査などから明らかになったことは、各事業者で働く人々が秩父地域に誇りと愛着を持ち、通常の事業とは別の個々の繋がりの中から、より良い社会を築こうとして取り組んでいることであった。

したがって、今後は、このような取り組みを、最初に述べた地域の特徴を活かした森林資源利用へと繋げることが重要な課題である。

(連絡先: 岩田雄介 yusuke_iwata_0305@yahoo.co.jp)